

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号：34419

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820074

研究課題名（和文） 中国 1950 年代の連環画研究

研究課題名（英文） A study of Chinese lianhuanhua(連環画) in 1950's

研究代表者

中野 徹 (NAKANO TORU)

近畿大学・文芸学部・講師

研究者番号：20610512

研究成果の概要（和文）：

本研究では、中華人民共和国における重要なメディアのひとつである連環画について、1950年代の中国の連環画に関する資料調査およびその分析をおこなった。1950年代に刊行された『連環画報』（1951-1960）の復刻版の読解・分析を進めるとともに、国立国会図書館関西館の上海新華書店旧蔵書の連環画コレクションの調査、および雑誌『美術』における連環画関連の記事を収集・分析した。

研究成果の概要（英文）：

In this research, documentary search about Chinese lianhuanhua(連環画) of the 1950s and its analysis were conducted about lianhuanhua which is one of the important media in the People's Republic of China. While advancing analysis of the reprinted edition of the *lianhuanhua bao* (連環画報) (1951-1960) published in the 1950s, investigation of the lianhuanhua collection of the Shanghai Xinhua bookstore(上海新華書店) old collection of books of Kansai-kan of the National Diet Library and a lianhuanhua's related article in a magazine *Meishu* (美術) were collected and analyzed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：中国文学、連環画、中国文化、中国美術、中華人民共和国

1. 研究開始当初の背景

連環画は、1ページあたり1コマの絵をもつ小冊子体の絵物語であり、中華人民共和国においては、膨大な数の連環画が生み出され、

多くの人々に享受されてきた。中国の連環画は、中国の文学者である魯迅や茅盾らが1930年代から、そのプロパガンダとしての有用性を指摘してきたこともあり、中華人民共

和国成立以後、政策や科学知識、文学作品の普及の面において、大きな役割を果たしてきたといえる。しかし、阿英「中国連環画史話」(1957)に代表される専著こそあるものの、連環画はその通俗性のために、これまでその学術的価値は中国国内においてもほとんど顧みられることはなかった。

近年、中国においては、1950年代60年代の文物を懐古する傾向にあり、その流れのなかで、連環画にも骨董品価値が付与されてきた。それにともない、中国国内では、連環画コレクターたちが急増しており、中国連環画研究は、研究者ではなく、民間の連環画コレクターによって、目録作りや版本研究が独自に進められてきたといつてよい。

この連環画に関する資料は、日本国内においては、国立国会図書館関西館に多く所蔵されている。また、武田雅哉氏の個人所蔵など、日本における連環画資料は少ないとはいえない状況にあるにもかかわらず、日本においては、武田雅哉氏の連環画研究をはじめ、石井恵美子氏の連環画と通俗小説の関係を扱った論考こそあるものの、連環画に対する研究はまだ少ない。

連環画は、中国出版研究のみならず、時代を映す「鏡」として、小説研究、現代史研究など、さまざまな側面から活用できる可能性を持っている。本研究では、日本においてあまり研究の蓄積のない連環画を対象とし、連環画関連の論考の一次資料の整理を中心とする基礎研究を行なう。

2. 研究の目的

本研究では、連環画の一次資料の収集・整理・分析を中心とする基礎研究を行なう。中華人民共和国成立まもない1950年代に焦点を絞る。1950年代の中国は、民営の出版社が公営に吸収・統合される時期にあたる。主にこの時期の連環画に関する資料の収集・分析を通して、中華民国期と中華人民共和国期の連環画の連続性と不連続性を明らかにし、連環画政策の整理をすることによって、連環画の作り手である物語の改編者と絵師の創作環境を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、日本における連環画の最大級の蔵書数をほこる国立国会図書館関西館の新華書店旧蔵書の連環画コレクションを調査をはじめとし、中国国家図書館および上海図書館の民国期・中華人民共和国期の連環画関連資料、上海市档案資料館の上海人民美術出版社の連環画に関する档案資料を調査した。あわせて、近年、中国で出版された復刻版『連環画報』をはじめ、連環画の復刻版や複数の連環画研究書を購入した。

本研究においては、収集した連環画の各種の版本の比較研究などの基礎作業と、資料の精読・分析により、中華人民共和国建国後の連環画政策を整理しながら、改編者と絵画担当者の芸術技巧および、受容形態について検討を加えるものである。

4. 研究成果

中華人民共和国成立後の重要な美術雑誌『美術』における連環画関連記事の目録を作成した。

国立国会図書館関西館所蔵の上海新華書店旧蔵書の連環画コレクションの調査をもとに、中国の連環画史についてまとめをし、またその資料的価値について報告した。

そのほか、清末の教育家武訓を題材とした二冊の連環画『武訓画伝』と『封建奴才—武訓』の比較を通して、1951年の毛沢東による武訓批判キャンペーン前後の武訓像の変容と、政治批判運動に連環画の絵師たちが参画を余儀なくされたことを論じた。

本研究期間に、連環画関連の資料の目録の作成、連環画政策の整理による中華人民共和国期の連環画史の概説など、一定の成果を挙げることができた。

本研究期間内に公表できた論考は多いとはいえないが、科研費によって連環画の版本を数多く購入できたほか、国内外での資料調査で興味深い資料を数多く収集することができた。上海市档案資料館の上海人民美術出版社の連環画政策に関する資料をはじめ、顧炳鑫『怎麼画連環画』(どのように連環画を描くか)の種々の版本である。前者は、連環画の出版会社の整理・統合を考証するうえで貴重である。また、後者は、連環画を普及させるために連環画の描き方を指導した入門書であるが、複数の版本にはそれぞれ中華人民共和国期の時代の雰囲気の色濃くにじみでており、中華人民共和国における普及と宣伝を考えるうえでも貴重な資料といえるだろう。今後も、収集した資料について、さらなる精読・分析を加え、連環画に関する研究成果をこれからも公表してゆく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①中野徹、国立国会図書館〈上海新華書店旧蔵書〉の連環画、『連環画研究』査読なし、第2号、連環画研究会、2013、60-61頁

②中野徹、上海新華書店旧蔵書と中国の連環画、『アジア情報室通報』査読なし、第10巻第1号、国会図書館、2012、2-4頁

③中野徹、大ゴロツキと呼ばれて—『武訓画伝』と『封建奴才—武訓』、『連環画研究』査読なし、第1号、連環画研究会、2012、83-94頁

〔学会発表〕(計3件)

①中野徹、上海連環画春秋序説、中国文芸研究会、2012年11月25日

②中野徹、“英雄”の変相—連環画『鉄道遊撃隊』をめぐって、近現代戦の表象比較研究「戦争のメモリー・スケープ」、2012年7月15日

③中野徹、上海新華書店旧蔵書について—連環画を中心に、アジア情報研修、2012年2月15日

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 徹 (NAKANO TORU)

近畿大学・文芸学部・講師

研究者番号：20610512

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：